



## 「CAD/CAMで作製したフルカントゥアークラウンと バーチャル咬合の有用性」

(有) 湘南セラミック 白石 大典 先生 (神奈川県)

近年、CAD/CAMシステムを応用した補綴物が臨床で多く使われるようになってきました。また、今後、口腔内スキャナーの普及と共にこの勢いはさらに加速していくことも予想されます。そのCAD/CAMシステムを最も効率よく使用する手法はフルカントゥアークラウンの作製だと感じます。ワックスアップしたものをダブルスキャンするのではなく、CADソフト上でフルカントゥアークラウンを作製する手法と咬合精度について「咬合構成の7要素」を基に臨床経験から解った注意点等を紹介し、その将来性を考察いたします。

## 「トータルバランスのとれた補綴物をめざして」



ナチュラル・セラミック 上林 健 先生 (神奈川県)

近年、審美修復への要求度はますます高まっている。メタルの高騰に加え、透過率の高いジルコニアも加わることで色調再現への幅は広がり、ジルコニアクラウンの症例も増えつつある。しかし、フルジルコニアクラウンは、割れない利点と欠点を兼ね備えている。そのため、臨床において十分な考慮が必要であることから、オールセラミックの対応もビルドアップ法かフルクラウンか如何に選択すべきか考えてみたい。

また、インプラント補綴におけるアバットメントの形態は、審美的補綴物を製作する上で最も重要な作業であると思われる。最適なアバットメントの形態基準・上部構造体のカントゥアーの与え方などを解説しながら、どのようにしたら予知性が高く審美的かつ機能的な咬合を得られるか述べてみたい。